

令和2年度岡山県農林水産総合センター 森林研究所（林業研究室） 機関評価結果票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 1人	優れている 2人	妥当 2人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 運営方針は全体の大きな目標として良く設定されている。文面だけに終わらないことを期待している。そのために「21おかやま森林・林業ビジョン」を立てて研究事業を進める方針は非常に良いと思う。個々の課題がビジョンのどこに位置づけられるかを意識しながら運営・推進してほしい。 2 森林・林業・木材産業が地域における基幹産業としての役割を果たせるよう試験研究、普及指導に当たってほしい。地球環境の異常性に対する森林の公益的機能の重要性に関することも必要ではないか。 3 改定された「21おかやま森林・林業ビジョン」を基本として、運営方針は適切であり、重点分野（花粉症、シカ対策）も社会的要請に応じていると考える。研究課題は公募されているが、どのような課題提案があって、どのように課題化したのか、その見える化も必要である。 4 研究課題等における県でしかできない課題がたくさんあると思われるので、今以上の実用的な試験研究に取り組み、成果をより多くの県民に周知してほしい。					
2 組織体制及び人員配置並びに 予算配分	非常に優れている 人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 研究員の行政との交流で、研究職員は比較的長期間研究職に従事しているとのことで、この分野の研究開発では時間のかかる課題も多く、そのような体制を続けてほしい。 2 H28年度から当初予算は増加してきており、特にR2年度は優良種苗確保事業の増額は大きい。森林研究所への期待の大きさによるものと考えられるが、その分、成果も求められる。費用対効果の面からも説明できるように意識して取り組む必要がある。 3 人員・予算共に減少する中、よく頑張っていると思われる。関係機関との情報共有等に努めてほしい。外部資金の獲得にも力を入れてほしい。					
3 施設・設備等	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 ドローン、森林3次元計測システム、自動種子選別機など、最近話題となっている新しい機器の導入もみられ、新しい研究課題への取組の姿勢がみられる。一時的なブームで終わらないよう有効に活用してほしい。 2 ドローンについては、測量では普通に用いられるようになってきており、さらに林相の状況確認や危険箇所などの発見など、今後の林業に関連した技術の開発が行われている。このため、森林研究所においても、ドローンを使った新たな林業技術開発に取り組んでみてはどうか。 3 毎年、新規導入機器があり、着実に充実が図られている。 4 施設も多岐にわたっていて、老朽化が進んでいると思われる。今後、施設・機器の更新等に積極的に取り組んでほしい。					
4 研究成果	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 近年の代表的な研究成果については、研究成果がよくまとめられている。一つ一つそれだけで終わるのではなく、課題終了時点の残された問題から次の研究への進展や成果の普及など、その後の展開につなげていってほしい。 2 菌根性きのこの人工培養やシカ被害対策、花粉抑制などユニークな研究に取り組み一定の成果を得、また対外的に評価されていることは賞賛される。今後も林業の発展に寄与する研究を進めていただきたい。 3 マツタケ、トリュフ等価値の高いきのこの人工栽培技術の確立を望む。 4 岡山県の森林研究所として、特色のある研究成果が得られている。得られた（得られる）成果の出口を意識して、得られた成果の具体的な活用事例の紹介・PRや、研究成果を実際に活用してもらうための方策の検討も必要である。 5 期間が経過した研究の実用化が課題である。実用化に向けた普及指導が大切だと感じる。					

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、 依頼試験、情報提供等所掌業務の実施状況	非常に優れている 人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 研究職員が研究実施のほかに普及・広報にも労力を割かなくて済むよう林業普及推進班が研究職と独立している点はいいと思う。ただ、往々にして研究職と行政職との連携が悪くなりがちなことも多く、研究成果が上手く普及できるよう、両者の連携に気をつけながら進めてほしい。 2 「森林研究発表会」や「森林講座」などでは、林業技術者・関係者と一般市民の両方を対象とせず、聴衆のターゲットを分けてテーマを決める方がよい。各回の参加数や聴衆のタイプなどの分析により、ニーズの特徴も把握できるのではないかと。 3 情報発信を高めてほしい。 4 様々な分野を対象に、多くの技術相談を行っている。このような技術相談の中に、研究ニーズが潜在していることもあるので、もっとPRしてもよい。 5 限られた人員で相談・指導・普及によく当たっていると感じる。今後、情報提供に力を入れ、特にマスコミに取り上げてもらうように努めてほしい。					
6 人材育成	非常に優れている 人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 限られた職員数で多くの課題をこなしている。県の方針もあって難しいことと思うが、可能であれば研究職員の増員が望ましい。新規採用により若干平準化したとのことだが、加えて絶対的な勢力量の増加が望ましい。 2 学会参加も近畿中国地方が主体となっている森林応用学会だけでなく、全国大会へも積極的に参加し、研究の動向の把握など見聞を広めてほしい。 3 他機関との連携強化を図り、スキルアップに努めてほしい。 4 森林総研等での研修や学会発表等への参加は評価できる。競争的資金へ自ら企画立案して応募することや、査読のある学会誌へ研究成果を論文として投稿することを通じて、人材育成を図る視点も組織として検討してほしい。 5 国の研究機関・他県との交流・学会研究会等により、積極的に情報交換をしてほしい。					
7 他機関との連携	非常に優れている 人	優れている 人	妥当 5人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 複数の他機関との連携がよく取れている。ただ、共同研究など受け身的な印象がある。近年の傾向として県が中心になって外部資金を取りにくくなっている背景もあり、岡山県が中心となって大型プロジェクト立案まではなかなか困難と思うが、外部資金獲得までいかなくても他県や他機関に働きかける姿勢もほしい。 2 産学官連携で新技術の開発を望む。 3 国や都道府県の試験研究機関との連携の実績が認められる。研究成果の実用化につながる具体的な相手・組織・企業との連携をさらに進めてほしい。 4 今以上により良い連携を増やしてほしい。					
8 県民・地域への貢献	非常に優れている 1人	優れている 人	妥当 4人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 県民、森林組合、市町村などからの問合せも年間200件を超えて非常に多く、それらに対してもよく対応している。 2 県土の68%が森林の状況の中で、県民に関心を持ってもらえるよう情報発信してほしい。 3 年報や研究報告の発行、研究成果発表会や森林学習講座の開催を通じて情報発信に努めている。地域貢献のための何か新たな取り組みを模索してほしい。 4 コロナで大変だとは思いますが、情報発信に努めてほしい。特に、都市部の方に対して森林に関する情報提供をお願いしたい。					

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 予算的にも精力的にも厳しい中、出来る範囲でよく対応していると思う。 2 様々な指摘に対してよく対応し改善されている。 3 積極的な対応が感じられる。					

総合評価	非常に優れている 人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 人	全面的見直しが必要 人
<b>助言、指摘事項等</b> 1 研究成果が実際にどう活用されているか（アウトカム）についても情報を把握しておくことが必要ではないか。個人的にはアウトカムについてランク付けを行う評価まではしない方がよいと思うが、アウトカムの事例収集だけでなく、活用した・しない理由や、利用しての感想などの情報も収集し、それらを分析することにより、普及へつなげる際の効率や問題点を把握できるようになればよいと思う。 2 限られた予算及びマンパワーの中で、菌類や鳥獣対策、花粉対策、低コスト化など興味深い研究に取り組まれていることを評価する。今後、林業については後継者の問題が深刻化するとと思われるので、小中高校生への普及活動も必要と考える。 3 限られた予算と人員の中で、社会的な要請に応じて、特色ある研究成果が得られていると評価できる。研究成果の実用化のため、成果を活用してくれる組織との連携を進め、それら組織と実用化のための外部資金への応募・獲得に期待する。 4 限られた人員・予算の中で、よく頑張っていると評価する。県の研究機関として、県民が利用できる情報を発信してほしい。国・県の予算獲得を今以上に頑張してほしい。					